

中高交流学力向上事業 3年目が始まりました

去る4月27日(火)飯山市教育委員会主催で「中高交流学力向上事業」の連絡会が開催されました。3年目を迎えた今年度も引き続き県教委の支援を受け、小中高を連携しながら学力向上のために、なお一層の取り組みをします。

活動は、小中高一貫のカリキュラムを研究開発し、全体の学力を底上げすることを目指します。特に、これまでのつまずき調査から見てきた重点ポイントである「割合・比・比例・関数」について教材の系統性を明確にし、「量的二重数直線図」を用いた指導の研究実践を進めます。ご支援ご協力よろしくお願いたします。

継続して小中高での授業交流を行い連携を強化していきます。

I C 委員会事務局長・・・平塚和行(飯山北高校 数学科)
I C 委員会事務局次長・・・大池裕達(飯山北高校 数学科)
I C 事務局員・・・日台邦治(飯山市立城北中学校 数学科)
萩本禎子(飯山北高校 数学科)
齊藤淳一(飯山北高校 数学科)

城北中の日台です。TTで
泉台小学校6年生5時間
飯山北高校1年生3時間
を担当します。

この事業において、20年度は平塚・篠原両教諭が第二中学校・飯山北高校の授業をTTで担当し合い研究をしてきました。21年度は研究成果を共有し広げるため飯山北平塚教諭が第一中学校へ、飯山北萩本教諭が第三中学校へ、第二中学校篠原教諭が飯山北高と秋津小学校へ通年で授業交流にっていました。

本年度は、飯山市内中学校が統合され、城北中・城南中として新たな歩みを始め、両中学校との授業交流を継続して行います。また、小中高の一貫したカリキュラムの研究のためにも、小学校との授業交流も継続して行います。

折しも、飯山北高校が今年度から5年間のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受けることが決まりました。本事業で培ってきたネットワークや教育実践はSSHにとっても本事業にとっても相乗的に補強・補完されていくものと考えています。また今年度は「つまずき調査・学習意識調査」に、21年度から参加されている野沢温泉村に加え、栄村と木島平村からも参加希望をいただき、これで四市村がそろうことになります。

北高の平塚です。引き続き事務局をまとめます。

北高の齊藤です。小中学校の授業参観等をさせていただきます。



北高の萩本です。TTで城北中学校3年生2時間を担当します。

北高の大池です。TTで城南中学校3年生2時間を担当するとともに、事務局次長をつとめさせていただきます。

本年度の活動予定です

平成21年度2月の「つまずき調査・学習意識調査」のまとめと報告(報告書作成4~7月)

平成21年度「つまずき調査・学習意識調査」の報告会と公開授業の実施 7月15日(木)[飯山北高校にて]

平成22年度「つまずき調査・学習意識調査」の実施(5月下旬、1月下旬)

平成22年度「つまずき調査・学習意識調査」まとめと報告(要約版作成3月)

研究活動と授業実践(日常的に実施)

I C 通信の発行・配付(随時)、自主教材の蓄積と公開を含めたホームページの運営(随時)

平成22年度の事業報告と次年度の活動計画(3月)

小中高でそれぞれ行われる授業研究会や公開授業への参加(随時)

教育課程研究会への参加(10月)

飯水算数数学同好会への参加(5、8、3月)

小中高のグランドカリキュラムデザインの構築(すべての学年の単元を具体的に精査し、割合・比・関数の概念を「量的二重数直線図」を用いるなどして、どのように組み込めるか)

各階層で正答が得にくい問題・概念をどのように教えるか、その教材開発。共通宿題と各自に合った宿題の開発

「活用力を問う問題」の開発(各種白書や地理統計・理科年表を使っての問題開発、及び日常生活に根ざした問題の開発)と利用

早速5月下旬にプレテストとして小6・中3・高2生のつまずき調査・学習意識調査を実施いたします。調査結果速報(概略)を7月の研究会で、21年度調査のまとめ等と合わせて報告する予定です。